



3.3

2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。

田中 昭男
歯学部
病理学室

歯周組織再生因子の開発で、口腔細菌による感染症に対処する

歯周病は口腔細菌による感染症であり、歯肉の炎症から始まり、歯根膜および歯槽骨へ進展し、歯根膜の破壊そして歯槽骨の吸収が生じ、歯が動揺して脱落する疾患です。歯周病によって破壊された歯周組織は、その原因となったプラークおよび不良肉芽を完全に除去すれば、身体の治癒能力で歯周組織は再生されますが、その誘導を適切に行わないと、本来の歯周組織の構造は確保できないことになります。また、その速度は遅く、再生を促進する物質が必要となります。それと共に局所の清掃も徹底して行う必要があります。

このような組織再生を促進する物質で、しかも生体由来の物質を見いだせれば、組織の治癒が促進し、再生が速やかに進むと考えられます。今まで、Emdogain を基に WYQNMIR のアミノ酸配列のペプチドを見出し、そのペプチドを人工的に合成して in vivo での反応を検討し、歯周組織の一部と同じ物質が形成されることを観察しています。これをさらに発展させ生体にとって良好な物質を見つけることが目標です。

message

現在では、口腔の健康は全身の健康と密接に関連していることがエビデンスをもって示されているので、口腔の健康に携わる者としての人々の口腔の健康のみならず、全身の健康の維持促進について啓発を行えると考えます。